

自殺予防教育プログラム実施報告書

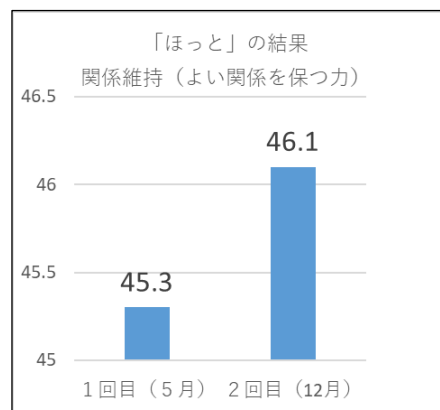
学校名	枝幸町立枝幸中学校
-----	-----------

(1) 教職員間の共通理解を図る研修等の実施

研修等の実施日	令和5年7月20日(木)、8月30日(水)	研修参加人数	16人
研修内容	<ul style="list-style-type: none"> ・自殺予防教育プログラムの目的について ・「アセス」、「ほっと」及び「ほっとプラス」の見取り方及び活用方法について ・「SOSの出し方に関する教育」について ・「心と身体のチェックリスト」の見取り方及び活用方法について 		
研修に参加した教職員の声	<ul style="list-style-type: none"> ・今なぜ「自殺予防教育プログラム」が重要かつ必要なのかが理解できた。 ・「アセス」や「ほっと」の結果から、生徒の実態を数値で把握できたので、生徒への接し方に反映させていきたい。 		
研修等で使用した資料名	<ul style="list-style-type: none"> ・「自殺予防教育の実施に向けて(その1)」(道教委) ・「自殺予防教育の実施に向けて(その2)」(道教委) ・『「SOSの出し方に関する教育」を始めましょう!』(道教委) 		

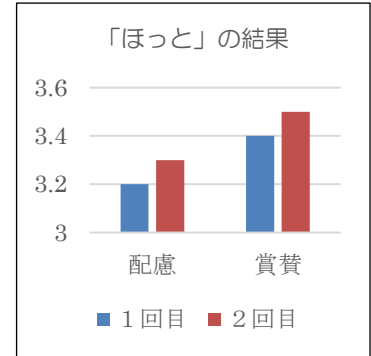
(2) 「自殺予防教育プログラム」の実施

	実施状況(主な実施内容、アセスメントツール等による生徒の変容、生徒の感想等)
A 援助希求的 態度の 育成	<p>○ 実践の概要(対象:第1学年、教科:特別活動、実施時期:4月、6月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談しやすい人間関係の構築を目指し、入学直後の4月と6月に特別活動の時間において、第1学年の学級担任が、上手な話の聴き方についての指導を行った。 <p>○ 生徒の変容を促す工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が、「あたたかい言葉かけ」等の言語スキルや「相手の方に身体を向けて話を聴く」等の非言語スキルを活用できるよう、ペアやグループでロールプレイングを行うなど、多様な他者とコミュニケーションを図る場の設定を工夫した。 ・生徒一人一人が安心して参加することができるよう、学年団の教員が連携して、ティーム・ティーチングによる授業を行い、肯定的な声かけを行うとともに、生徒一人一人へきめ細かな指導を行った。 <p>○ 生徒の変容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月と12月に実施した「ほっと」において、第1学年の関係維持(よい関係を保つ力)の項目が0.8ポイント上昇するなど、数値の変容が見られ、生徒の様子から、相手がどのように感じるかを考えた言動が増えた。 <p>○ 生徒の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校で新しい仲間との関係をよくしていくためには「あたたかい言葉」と「しっかりと話を聴く」ことが、大事だと分かった。 ・自分の話を聴いてもらうためには、相手の話もしっかりと聴かなければいけないと思った。



B
早期の問題認識
(心の健康)

- 実践の概要 (対象：第1学年、教科：保健体育科、実施時期：8月)
 - ・自殺予防の知識等を身に付け、早期に自分自身の心の不調に気づき、対応する資質・能力の育成を目指し、8月に第1学年の保健体育科の授業において、「自己形成と心の健康」についての内容を扱った。
- 生徒の変容を促す工夫
 - ・保健体育科の「自己の形成と心の健康」の学習と関連させ、ストレスが生活や健康に与える影響について考え、各自で具体的にどのように対処することができるのか交流を行った。
 - ・自分の不調だけではなく、周りの人の不調にも気づき、適切な行動をとることができるようコミュニケーション能力の重要性についても指導した。
- 生徒の変容
 - ・心の健康を保つには適切な対処の方法を選択する必要があることを理解することができた。
 - ・自分自身が自分の心の変化に気付くことの大切さと対処方法について理解を深めることができた。
 - ・5月と12月に実施した「ほっと」において、第1学年の「配慮」と「賞賛」の項目の得点がそれぞれ0.1ポイント上昇するなど、数値の変化が見られ、生徒の様子から、相手を思いやり、称える言動が増えた。
- 生徒の感想
 - ・自分の心の状態を確認することが大切だと分かった。
 - ・自分だけではなく、相手の様子や気持ちを考えながら声をかけようと思った。



C
ストレス対処能力の育成

- 実践の概要 (対象：全学年、教科：保健体育科等、実施時期：9月～11月)
 - ・ストレス対処能力育成に関する資質・能力の育成を目指し、9月から11月に第1学年の保健体育科、全学年の総合的な学習の時間及び特別活動の学習においてストレスへの対処の方法についての内容を扱った。
- 生徒の変容を促す工夫
 - ・ストレスへのさまざまな対処法について、自分事として捉えることができるよう、生徒自身の具体的な体験をもとに考えさせた。
 - ・悲観的な表現をどのようにしたら楽観的に捉えることができるのかをペアやグループで話し合う場面を位置付けた。
- 生徒の変容
 - ・楽観的に捉える学習をしたことにより、マイナス思考が減り、学級内でも前向きな発言が多くなった。
 - ・「ほっとプラス」において、「考え直す力」の全ての項目において数値の向上が見られた。
- 生徒の感想
 - ・ストレスの原因を考えて、対処していくことが大切だと思った。
 - ・マイナスばかりではなく、少しでもプラスで考えることが大事だと気付いた。

